

Spectrum™ Technology Platform

バージョン 12.0 SP1

Spectrum Visual Insights™ ガイド



目次

1 - はじめに

Spectrum Visual Insights™ とは	4
アーキテクチャ	5
主な機能	6

2 - インストール

Spectrum Visual Insights™ のインストール	10
Spectrum Visual Insights™ のアップグレード	12

3 - サイン イン

Spectrum Visual Insights™ へのサインイン	16
役割と権限	17

4 - データ視覚化

データ ソースへの接続	19
管理コンソール	20
レポートおよびグラフの作成	23
ストーリーボードの作成	24

5 - ステージ リファレンス

Write to VI Data Mart	26
-----------------------	----

1 - はじめに

このセクションの構成

Spectrum Visual Insights™ とは	4
アーキテクチャ	5
主な機能	6

Spectrum Visual Insights™ とは

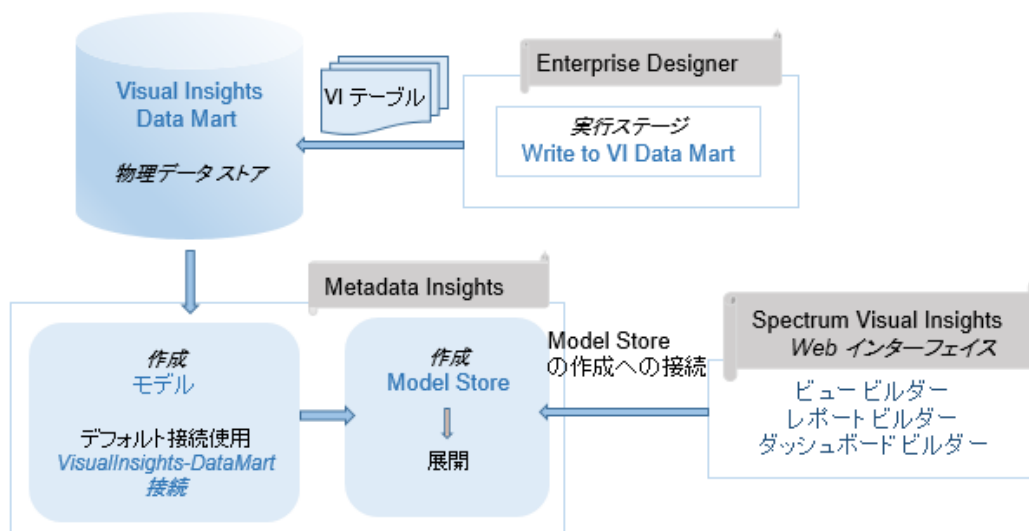
Spectrum Visual Insights™ モジュールを使用すると、強力なダッシュボード、レポート、およびグラフ化ツールを用いて多種多様なデータソースからの複雑なデータを視覚化できます。レポートやグラフを効果的に分析することにより、情報に基づくビジネス上の意思決定を行うことができます。

Spectrum Visual Insights™ モジュールには、次の機能があります。

- 統一されたデータビューを通じて統一ユーザインターフェイスで情報を表示するプラットフォーム
- 複数のデータソースからデータを一般的なレポートに整理統合する機能。手動でのデータ結合の作業は不要
- データを新しい組み合わせや異なる組み合わせで素早く取得できる、アドホックな分析レポート作成機能
- 専門知識を求めることなく、自律的にレポートを設計する機能
- レポートやグラフを生成するための役割ベースのアクセス権
- 各種のグラフを選択できる複数の視覚化オプションを備えた、使いやすいユーザインターフェイス
- 組織で利用される標準形式のレポートを作成する時間と手間を削減
- 意思決定責任者に、最新の情報を多機能かつ視覚に訴えるフォーマットで提供

Spectrum Visual Insights™ モジュールでは、データを視覚化してレポートを生成するために、Metadata Insights によって作成および展開されたモデルストアを利用します。モデルストアの作成の詳細については、『*Metadata Insights* ガイド』を参照してください。

アーキテクチャ



SVI アーキテクチャ

Visual Insights - コンポーネント

コンポーネント	目的	Process
Enterprise Designer	Spectrum Visual Insights Data Mart データベースにおける物理データストアの作成	<p>Write to VI Data Mart ステージを含むデータフローを実行します。このステージは、必要なデータソースからのデータをコピーして、データベース <i>Visual Insights Data Mart</i> に物理データストアを作成します。これには、デフォルトの Spectrum 接続である <i>VisualInsights-DataMart</i> が使用されます。</p> <p>詳細については、「Write to VI Data Mart (26ページ)」を参照してください。</p>

コンポーネント	目的	Process
Visual Insights Data Mart	デフォルトの Spectrum データベース	<i>Visual Insights Data Mart</i> は、 Write to VI Data Mart ステージによって作成された物理データストアを格納するコンテナとして機能します。
Metadata Insights	モデルとモデル ストアの作成	Metadata Insights Web インターフェイスにサインインします。 <i>Visual Insights Data Mart</i> に基づくモデルを作成します。続いて、モデルに基づくモデル ストアを作成して展開します。
Spectrum Visual Insights™ Web インターフェイス	レポートやグラフを用いたデータの視覚化	Spectrum Visual Insights™ Web インターフェイスにサインインします。 Model Store の作成への接続 Model Stores のデータは、必要なレポートやグラフを出力として生成するための入力として使用されます。 詳細については、「 モデル ストア 」を参照してください。
Management Console	Visual Insights データ ストアの管理	Management Console にサインインします。 Visual Insights Data Mart が管理できます。データ ストアの削除や、特定の間隔でのデータ ストアのクリアといった機能が使用できます。

主な機能

Spectrum Visual Insights™ Web インターフェイスの主な機能は以下のとおりです。

主な機能	説明
データ ソース	接続詳細情報を格納します。Spectrum Visual Insights™ は、この情報を使用してレポート生成の基になる外部データベースに接続します。詳細については、 データ ソース (20ページ) を参照してください。 注: 接続は、複数のビューを持つことができます。

主な機能	説明
ビュー	<p>ソース データベースの中のどのテーブルからのどのフィールドをレポート用に使用可能とするかを定義できる、メタデータレイヤとして機能します。詳細については、ビュー (20ページ) を参照してください。</p> <p>注: 任意のビューに基づく複数のレポートを生成できます。</p>
レポート	<p>任意のビューに基づくレポートを生成できます。</p> <p>注: レポートは、1つ以上のダッシュボードで使用できます。</p>
グラフ	<p>データをグラフ形式で表現することができます。</p>
ダッシュボード タブ	<p>レポートを生成した後に、カスタマイズされたダッシュボードを作成できます。1つ以上のレポートによって、レポートを生成できます。この機能は、主要パフォーマンス指標 (KPI) を表示して、パフォーマンスの実際値をすばやく明確に調べられるように設計されています。標準のダッシュボードは、高レベルのレポートをまず表示し、必要に応じて詳細をドリルダウンできる設計がとられています。タブを使って項目別やタイプ別に整理して、すべての重要なレポートを1ページに表示することができます。</p>
ストーリーボード	<p>完全に機能するレポート、テキスト、イメージ、ビデオを含むスライドショーが作成できます。ストーリーボードをさまざまなユーザに共有したり、ストーリーボードを参照する他のユーザと協力してスライドをレビューしたり、プレゼンテーション中に非公開のメモをスライドに加えることもできます。</p>
コラボレーション	<p>システム内で発生するイベントの追跡が可能な 'タイムライン' など、さまざまな機能を利用したコラボレーションが可能です。レポートにコメントを挿入したり、複数のレポートを同時に参照しながらディスカッションを行ったり、トレンドが変化する前に発生したイベントにコメントできるように日付の注釈を入れたりといった操作を行うことができます。</p>

新機能

次の表で、このバージョンの **Visual Insights** と前のバージョンを比較します。

バージョン 12

バージョン 12 SP1

スクリプトによるリポジトリのセットアップ

リポジトリのセットアップはインストール時に行われます。

Spectrum™ Technology Platform での実行

スタンドアロンシステムなので固有の環境で実行されます。どこにでもインストールでき、Spectrum™ Technology Platform と同じ場所である必要はありません。

ログインを Spectrum™ Technology Platform ユーザ専用
にカスタマイズ。

Spectrum™ Technology Platform ユーザは、SVI へのログインで新しい資格情報が必要になりました。

Management Console によるロールの作成

SVI でのユーザ管理には定義済みのロールが使われます。

管理コンソールにモデルストアのリストが自動的に表示
されます。ユーザは自分のログイン資格情報を用いてそ
れらをインポートする必要があります。

ユーザはモデル ストアへの接続を個別に確立する必要があ
ります。

モデル ストアのインポート後にビューを自動的に作成

モデル ストアに接続した後にビューを作成する必要があります。

デフォルトのコンテンツ カテゴリおよびサブカテゴリ
(**Visual Insights** レポート と **Visual Insights** エンティ
ティ) をユーザに提供

デフォルトのカテゴリはありません。ユーザがカテゴリを作
成する必要があります。

Spectrum™ Technology Platform アップグレード プロセ
スに組み込まれたアップグレード

ユーザ データをアップグレードする場合、このバージョン
ではユーザ作成コンポーネントをバージョン 12.0 からエク
スポートした後、Visual Insights 12.1 にインポートする必要
があります。

注: 今後のバージョンでは、独立したアップグレー
ド インストーラを提供する予定です。

2 - インストール

このセクションの構成

Spectrum Visual Insights™ のインストール	10
Spectrum Visual Insights™ のアップグレード	12

Spectrum Visual Insights™ のインストール

Spectrum Visual Insights™ は、Spectrum™ Technology Platform サーバーの枠外の固有の環境で動作するスタンドアロンシステムです。インストーラ (実行可能な形式の jar ファイル) は <Spectrum Installation path>/server/modules/svi/installer にあります。インストールを実行するには SVI ライセンス ファイルが必要です。

前提条件

- Java のバージョンが、現在インストールされている Spectrum™ Technology Platform システムで必要とされるものと同じか、それ以降であること。
- Spectrum™ Technology Platform 12.1 がインストールされていること。

以下の手順に従って Spectrum Visual Insights™ をインストールします。

1. svi-installer<バージョン番号>.jar をクリックします。これは現在の Spectrum™ Technology Platform システムが置かれている次のファイルパスにあります: <Location of Spectrum Installation>/server/modules/svi/installer
2. 言語を選択し、**[次へ]** をクリックします。

注: 選択できる言語は、英語、フランス語、スペイン語、オランダ語、ドイツ語です。

Spectrum Visual Insights™ システムのホーム パネルが表示されます。

3. 適切なパックを選択し、**[次へ]** をクリックします。**Core** パックは必須で、自動的に選択されます。

注: パックをクリックすると、関連するコンテンツについての情報と、インストールに必要なトータル スペースがパッケージのスナップショットの下に表示されます。

複数のパックを選択することもできます。

4. ライセンス ファイルを見つけます。**[参照]** ボタンをクリックし、ファイルを選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[全般オプション]** で、以下の情報を指定し、**[次へ]** をクリックします。

Web サーバーのポート Spectrum Visual Insights™ を実行するために使う HTTP ポート。デフォルトのポート番号は 8080 です。

Windows サービス **[Windows サービスをインストール]** チェック ボックスをオンにして、Spectrum Visual Insights™ を Windows サービスとしてインストールします (名前は SpectrumVisualInsights)。

6. Spectrum Visual Insights™ をインストールするデータベースのタイプを指定します。サポートされているデータベースは AS400、CacheDB、DB2、HSQLDB、Ingres、Microsoft SQL Server、MySQL、Oracle、PostgreSQL、Progress、Sybase ASE/ASA/IQ です。

注：ベータ版の TIDB と、HSQL に組み込まれている Configuration Database は今回のリリースの本番環境ではサポートされません。

7. 選択したデータベースについて以下の接続情報を指定し、**[次へ]** をクリックします。

データベースサーバーの場所 選択したデータベースサーバーのホスト、ポート、および名前を入力します。**[新規データベースの作成]** チェックボックスをオンにして、新しいデータベースを作成します。

注：新しいデータベースを作成するにはデータベースサーバーに対する管理者レベルのアクセス権が必要です。アクセス権がある場合は資格情報を **[管理ユーザ]** セクションに入力します。

データベースユーザ データベースユーザの資格情報を入力します。自分が新規ユーザである場合は、**[新規ユーザを作成]** チェックボックスをオンにし、必要な情報を入力します。

インストールが完了すると、メッセージ **Spectrum Visual Insights <バージョン> がインストールされました!** が表示されます。

8. Spectrum Visual Insights™ をインストールするパスを選択します。デフォルトのパスでは Spectrum™ Technology Platform と同じディレクトリにインストールされます。
9. **[完了]** をクリックしてインストーラのウィンドウを閉じます。Spectrum Visual Insights™ は Spectrum™ Technology Platform と同じフォルダにインストールされます。
10. Spectrum Visual Insights™ サーバーを開始するには、スタートアップアイコン  (SVI と同じ場所にある) をクリックします。あるいは、startup.bat を実行して開始することもできます。このバッチの場所は <SVI install location>\appserver\bin です。

Spectrum Visual Insights™ はリポジトリが設定された状態でインストールされます。以上の準備を終えた後、ログインしてデータソースへの接続を確立し、ビューやコンテンツのカテゴリを作成するなど、具体的な活動を行います。詳細については、[Spectrum Visual Insights™ へのサインイン](#) (16ページ) を参照してください。

Spectrum Visual Insights™ のアップグレード

アップグレード プロセスを実行する前に、現在のバージョンの Spectrum™ Technology Platform から SVI コンテンツをエクスポートする必要があります。

以下の手順で Spectrum Visual Insights™ をアップグレードします。

1. 現在のインストレーションに含まれているユーザ作成コンポーネントをエクスポートします。後に、エクスポート先からこれらの情報を新しいインストレーションにインポートします。

注：チュートリアル データをエクスポートする必要はありません。

- コンテンツ カテゴリ 'Visual Insights Reports'、コンテンツ サブカテゴリ 'Visual Insights Entities'。その他、自分で追加したコンテンツ カテゴリとコンテンツ サブカテゴリ。
- インポートしたモデル ストア。これらはデータソース カテゴリの下にあります。
- ビュー
- レポート
- ダッシュボード
- ストーリーボード

2. エクスポートしたコンポーネント (上記のステップ) と構成データベース (install.properties で指定) のバックアップを <Spectrum server location>/modules/svi/repositoryinstaller に作成します。

3. Spectrum™ Technology Platform を現在のバージョンから 12.1 にアップグレードします。

注：インストール手順は、[Spectrum Visual Insights™ のインストール](#) (10ページ) を参照してください。

4. Spectrum Visual Insights™ サーバーを開始し、デフォルトの資格情報でログインします。

注：Spectrum Visual Insights™ にサインインする手順は、[Spectrum Visual Insights™ へのサインイン](#) (16ページ) を参照してください。


5. ユーザ作成コンポーネント (最初のステップでエクスポートしたもの) をインポートします (以下を参照)。

注：アップグレードを正常に行うには、コンポーネントを次に示す順番でインポートする必要があります。


- a) [管理] メニューで、[インポート] をクリックします。

- b) ファイルをエクスポートした場所まで移動し、ファイルを選択し、**【カスタムインポート】**をクリックし、**【続行】**をクリックします。
ファイル内のすべてのコンポーネントが**【インポート】**ページの左側のパネルに表示されます。
- c) これらのコンポーネントを右側のパネルに1つずつドラッグし、コンポーネントの設定(以下を参照)を指定し、**【インポート】**をクリックします。

注: コンテンツ カテゴリとコンテンツ サブカテゴリを最初にインポートする必要があります。その他のコンポーネントは、以下の設定を指定した後に、1つずつインポートできます。


- **コンテンツ カテゴリとコンテンツ サブカテゴリ:** **【インポート】**の後ろの  をクリックします。

注: **【インポート】**をクリックしても警告は表示されません。インポートが成功すると、ポップアップは自動的に閉じます。


- **データベース接続:**  をクリックし、表示されたポップアップで Spectrum™ Technology Platform サーバーの **【ホスト】** 情報を入力し、**【接続をテスト】** をクリックし、**【インポート】** をクリックします。

注: この操作を、インポートするすべての接続について行います。

注: 接続のテストが成功すれば、Spectrum™ Technology Platform サーバーは正常に動作しており、関連するモデルストアが **Metadata Insights** に展開されています。モデルストアに接続するためのデフォルトポートは **32750** です。

- **ビュー:**  をクリックし、表示されたポップアップで **【リンクされたコンテンツのマッピング】** をクリックします。データソースはインポート済みなので、ビューに自動的に設定されます。**【サブフォルダ】** フィールドは空白のままかまいません。**【インポート】** をクリックします。

注: この操作を、すべてのビューについて行います。

- **レポート、ダッシュボード、ストーリーボード:**  をクリックし、表示されたポップアップで **【リンクされたコンテンツのマッピング】** をクリックし、**【インポート】** をクリックします。

注: **【リンクされたコンテンツのマッピング】** をクリックすると、関連する項目が自動的に設定されます。

以上で、すべてのユーザ定義コンポーネントが現在のバージョンの Spectrum Visual Insights™ にインポートされました。以降、これらを使用して作業を開始できます。

3 - サイン イン

このセクションの構成

Spectrum Visual Insights™ へのサインイン	16
役割と権限	17

Spectrum Visual Insights™ へのサインイン

Spectrum Visual Insights™ はブラウザベースのツールで、対話方式で操作できるダッシュボードやレポートツールなどの高度な機能を駆使してビジネスデータを視覚化したり、分析することが可能です。

以下では、Web ブラウザを使用して Spectrum Visual Insights™ にアクセスする手順を示します。

注：サインインする前に、Spectrum Visual Insights™ モジュールがインストールされていることを確認します。詳細については、「[Spectrum Visual Insights™ のインストール](#)」を参照してください。

1. Web ブラウザを開きます。
2. URL: `http://server:port` にアクセスします。

説明:

server: Spectrum Visual Insights™ サーバーの名前または IP アドレス。

port: Spectrum Visual Insights™ サーバーで使用される HTTP ポート。

Spectrum Visual Insights™ のインストール時に入力したポートです。

3. 有効なユーザ名とパスワードを入力します。

管理ユーザ名は "admin" で、デフォルトのパスワードは "admin" です。システムに対して不正な管理者アクセスが行われることを回避するために、Spectrum Visual Insights™ をインストールした後すぐに admin パスワードを変更してください。

注：SVI モジュールの既存ユーザであっても、Spectrum Visual Insights™ 12 SP1 に正しくログインするには新しい資格情報が必要です。管理ユーザは、その他のユーザ ID を関連する役割によって作成します。

4. **[ログイン]** をクリックします。
5. 非再販ライセンスに関する情報のところで、**[続行するにはここをクリックします]** リンクをクリックします。

Spectrum Visual Insights™ のホーム ページが表示されます。

役割と権限

Spectrum Visual Insights™ は、特定の役割ごとに権限があらかじめ設定されている定義済みの役割で構成されています。任意の Spectrum Visual Insights™ ユーザーに、以下の任意の定義済み役割を割り当てることができます。こうした一連の定義済み役割を以下に示します。

- コンシューマーおよびコラボレーター
- パーソナル コンテンツ ライターおよびコラボレーター
- パブリック コンテンツ ライターおよびコラボレーター
- システム管理者

これらの役割と新しい役割を作成する処理については、<http://wiki.yellowfin.com.au/display/USER73Plus/Roles> を参照してください。

4 - データ視覚化

このセクションの構成


データソースへの接続	19
管理コンソール	20
レポートおよびグラフの作成	23
ストーリーボードの作成	24

データソースへの接続

Spectrum Visual Insights™ では、Metadata Insights モジュールで設定して展開したモデルストアのみを接続先のデータソースとして指定できます。

注：モデルストアを作成して展開する方法については、『Metadata Insights ガイド』を参照してください。

データソースに接続する手順は次のとおりです。

1. Spectrum Visual Insights™ ホームページで、 [追加] > [データソース] の順にクリックします。

[新しい接続] ポップアップウィンドウが表示されます。

2. [JDBC を使用してデータソース接続を作成] を選択します。
3. [新しい接続] ポップアップウィンドウで、以下の接続パラメータを指定します。


- 接続の名前
- 接続の説明
- Spectrum Model Store (データベースタイプ)

注：Visual Insights で接続できる唯一のデータベースタイプです。

- Spectrum™ Technology Platform ホストの詳細
- モデルストアの接続ポート

注：デフォルトのポート番号は 32750 です。

- 接続先のモデルストアの名前
- Metadata Insights でモデルストアに接続するための資格情報

4.  をクリックし、[接続をテスト] を選択します。
接続に成功すると、「接続成功」というメッセージが表示されます。

5. [ビューの作成] をクリックして次のステージに進み、以下の情報を指定します。

- ビュータイプ

注：このオプションを選択したときに表示されるビュータイプの詳細。

- 分析するモデルストアのテーブル。
- ビューの名前と説明

6. **[分析の作成]** をクリックしてレポートやグラフの作成を開始します。モデルストアの選択したテーブル内のデータに基づいて作成されます。

管理コンソール

この管理機能を使って、ビュー、レポート、ダッシュボードをカスタマイズすることができます。これは、管理ユーザがシステムの管理に必要なすべてのコントロールに素早くアクセスできる集中設定ページです。

[管理] タブにアクセスするには、Spectrum Visual Insights™ Web インターフェイスにログインし、**[管理]** > **[管理コンソール]** に移動します。

詳細については、[Spectrum Visual Insights™ へのサインイン](#)（16ページ）を参照してください。

データソース

[データソース] ページには、レポート用のソースデータにアクセスするためにシステムで使用される接続の詳細が含まれます。使用可能な唯一のデータソース接続は、Metadata Insights モジュールで作成および展開されたモデルストアに対するものです。

詳細については、「[データソースへの接続](#)（19ページ）」を参照してください。

ビュー

ビューは、テーブル間の関係を定義するメタデータレイヤです。

[管理] > **[管理コンソール]** > **[ビュー]** に移動します。Visual Insights-Data Mart 接続を使用して作成され、展開済みのモデルストアが一覧表示されます。

詳細については、<http://wiki.yellowfin.com.au/display/USER73Plus/Creating+a+View> を参照してください。

ユーザ

ユーザは、ユーザのログインに基づいてシステムへのアクセスを提供します。管理者は、ユーザリストを利用してシステム内の全ユーザを参照できます。

このリストにアクセスするには、管理コンソールのメインパネルで **[ユーザ]** セクションを展開します。

注：ユーザは読み取り専用で、Management Console によって管理できます。

[管理] > **[管理コンソール]** > **[ユーザ]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Users> を参照してください。

ユーザ グループ

ユーザ グループは、ユーザの共通セットをグループ化する機能です。グループの作成と管理には管理コンソールを使用できます。

[管理] > **[管理コンソール]** > **[ユーザ グループ]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/User+Groups> を参照してください。

コンテンツ フォルダとコンテンツ サブフォルダ

コンテンツ フォルダは、類似しているサブフォルダどうしをグループ化するために使用します。このフォルダにコンテンツが直接格納されることはありません。

コンテンツ サブフォルダは、対応するフォルダ内にあり、指定された役割やアクセス権限を持つコンテンツを格納するために使用します。この場合に格納されるコンテンツのタイプは、レポートとダッシュボード タブです。

[管理] > **[管理コンソール]** > **[コンテンツ フォルダ]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Content+Categories> を参照してください。

コンテンツ タグ

コンテンツ タグを使用すると、特定の類似エンティティをラベル付けすることができます。

タグは、以下のタイプのコンテンツに使用できます。

- ディスカッション
- レポート
- ダッシュボード
- イメージ
- 注釈

[管理] > **[管理コンソール]** > **[コンテンツ タグ]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Content+Tags> を参照してください。

日付フィルタ期間

日付フィルタ期間は、さまざまな日付フィルタ オプションを提供します。

[管理] > **[管理コンソール]** > **[日付フィルタ期間]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Date+Filter+Periods> を参照してください。

GeoPack

GeoPack 管理は、データをソース データベースに組み込んで保存しなくても操作できるように設計されています。

パックは次の 3 タイプのデータを提供します。

- 地理的ラベル
- 地理的フィールド (ポイント、ときにはポリゴン)
- 人口統計メトリクス

[管理] > **[管理コンソール]** > **[GeoPack 管理]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/GeoPacks> を参照してください。

レポートおよびグラフの作成

作成機能を使うと、レポートとグラフを作成または生成することができます。

以下のサブ機能を使用できます。

- [レポート](#) (23ページ)
- [データ](#) (23ページ)
- [グラフ](#) (23ページ)
- [出力](#) (24ページ)

レポート

レポートは、ビューを基に作成されます。

[作成] > **[レポート]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfin.com.au/display/USER73Plus/Creating+a+Report> を参照してください。

データ

[データ] ページでは、レポートの生成に使用されたレポート データ定義の構築、編集、表示を行うことができます。

[作成] > **[レポート]** > **[データ]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Report+Builder+-+Data+Step> を参照してください。

グラフ

グラフは、テーブルやクロス集計テーブルをグラフィカルに表現したものです。

[作成] > **[レポート]** > **[グラフ]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Report+Builder+-+Charts+Step>を参照してください。

出力

出力には、レポートのステータスに基づく 2 つの機能があります。

ドラフト レポートがドラフト(下書き)モードにある場合、出力では、テーブルの表示の書式を設定したり、必要に応じて複数グラフのキャンバスを定義したりすることができます。

アクティブ レポートがアクティブモードにある場合、出力では、レポートアクションが実行できます。適切な役割の権限を持つユーザに対して、レポートをドラフトモードに戻したり、さまざまなコンポーネントを編集したりするオプションも提供します。レポートアクションとは、レポートのエクスポート、共有、ブロードキャストなどの操作を指します。

[作成] > [レポート] > [出力] に移動します。

詳細については、

<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Report+Builder+-+Output+Step> を参照してください。

ストーリーボードの作成

ストーリーボードでは、テキスト、イメージ、ビデモを含め、完全に機能するレポートを提供するスライドショーを作成できます。

スライドショーを作成するには、**[作成] > [ストーリーボード]** に移動します。

詳細については、<http://wiki.yellowfinbi.com/display/USER73Plus/Storyboard> を参照してください。

5 - ステージ リファレンス

このセクションの構成

Write to VI Data Mart

26

Write to VI Data Mart

Write to VI Data Mart ステージでは、複数のデータソースからのデータを照合して、物理データストアを Spectrum データベースである *Visual Insights Data Mart* に作成できます。

Metadata Insights で作成された *Visual Insights Data Mart* データストアに基づくモデルストアは、Spectrum™ Technology Platform 内からも、JDBC 接続を使用して外部からもアクセスできます。

注：JDBC ドライバ設定の詳細については『管理ガイド』の「データソース」の章を参照してください。

フィールド	説明
データストア名	<p>Virtual Data Source の一意の名前を入力します。</p> <p>注：[データストア名]に重複する名前を入力すると、エラーが返されます。名前には、アンダースコア (_) が使用できます。</p>
データストアの作成	<p>データソースを作成するには、[データストアの作成] をクリックします。この操作は、Virtual Data Source を作成するために必須です。[データストアの作成] をクリックすると、Virtual Data Source が Metadata Insights に作成されます。</p> <p>重要： [データストアの作成] をクリックする前に、他のすべてのステージオプションを設定しておく必要があります。必要に応じてフィールドの再ロードも行います。</p>
フィールドを再ロード	<p>入力に含まれるすべてのフィールドを再ロードして、必須フィールドを選択できるようにします。</p>
VI フィールド	<p>選択されたデータソースに存在するすべてのフィールドを示します。</p>
データストアフィールド	<p>選択されたデータソースに存在する各フィールドを示します。</p> <p>注：データストアフィールド名に使用できるのは、大文字、数字、アンダースコア (_) のみです。特殊文字は使用できません。</p> <p>警告： データストアフィールド名に特殊文字を使用すると、例外が発生します。Write to VI Data Mart ステージへの入力ステージにおいて、アンダースコアを除くすべての特殊文字をフィールド名から削除してください。または、Write to VI Data Mart ステージでフィールド名を編集できます。</p>

フィールド	説明
ステージ フィールド	ソース ステージから渡される各フィールドの実際の名前を示します。
Type	各フィールドのデータタイプを示します。
含める	Spectrum Visual Insights™ モジュールに渡して処理および視覚化するフィールドを選択します。デフォルトでは、すべてのフィールドが選択されています。Virtual Data Source の作成時に含めないフィールドの選択を解除します。

Management Console から Spectrum™ Visual Insights データ マートを管理するには、[データストアの管理](#) (27ページ) を参照してください。

重要： VI データ マートにアクセスするには、データベース名 VIDataMart と各 VI データ マートのポート番号を使用して JDBC 接続を確立する必要があります。VI データ マートのデフォルトのポートは 9003 です。

デフォルトのポート番号を変更するには、設定ファイル <Spectrum installation folder>\server\modules\svi\conf\vidatamart\internaldatastore_config.properties を開いて次のプロパティを変更します:

```
vidatamart.server.port=<desired port number>
```

データストアの管理

Management Console から Spectrum™ Visual Insights データ マートを管理するには、以下の手順に従います。

1. Management Console にログインします。
2. [リソース] > [Visual Insights Data Mart の管理] をクリックします。

Visual Insights Data Mart の管理

[Visual Insights Data Mart の管理] 画面には、データストアとその詳細情報が表示されます。

機能	説明
フィルタ	フィルタ対象とする特定のデータストア名を入力します。

機能	説明
データストアの削除	<p>削除する特定のデータ ストアを選択して、データ ストアの一覧の上にある [Delete data store (データストアの削除)] アイコンをクリックします。</p> <p>注： Management Console から Visual Insights データ ストアを削除すると、削除された Virtual Data Source は、Spectrum™ Visual Insights Web インターフェイス上のデータ ストアのリストからも削除されます。</p>
データストアの詳細の表示	<p>データ ストアを選択して、データ ストアのリストの上にある [View data store details (データストアの詳細の表示)] アイコンをクリックします。</p> <p>選択したデータ ストアに含まれるフィールドの詳細と、それぞれのフィールドのデータ タイプが、[Properties (プロパティ)] セクションに表示されます。</p> <p>選択したデータ ストアをクリアする時間を設定するには</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Empty Data Store (データ ストアを空にする)] チェックボックスをオンにします。 2. [クリアのタイムアウト時間 (分)] フィールドで、クリア時間を選択します。 <p>注： デフォルトのクリア期間は、240 分間です。</p>
あなたの名前	データ ストア名。
データフロー名	データフローの作成と、データ ストアへのデータの設定に使用されるデータフローの名前。
ステージ名	そのデータ ストアを作成したステージ名。
Size	そのデータ ストアに存在するレコードの数。
最終更新日	データ ストアが最後に更新された日付と時間。
最終更新者	データ ストアを更新したユーザ名。
ページあたりの行数	各ページに表示するレコード数を選択します。

著作権に関する通知

© 2017 Pitney Bowes Software Inc. All rights reserved. MapInfo および Group 1 Software は Pitney Bowes Software Inc. の商標です。その他のマークおよび商標はすべて、それぞれの所有者の資産です。

USPS® 情報

Pitney Bowes Inc. は、ZIP + 4® データベースを光学および磁気媒体に発行および販売する非独占的ライセンスを所有しています。CASS、CASS 認定、DPV、eLOT、FASTforward、First-Class Mail、Intelligent Mail、LACS^{Link}、NCOA^{Link}、PAVE、PLANET Code、Postal Service、POSTNET、Post Office、RDI、Suite^{Link}、United States Postal Service、Standard Mail、United States Post Office、USPS、ZIP Code、および ZIP + 4 の各商標は United States Postal Service が所有します。United States Postal Service に帰属する商標はこれに限りません。

Pitney Bowes Inc. は、NCOA^{Link}® 処理に対する USPS® の非独占的ライセンスを所有しています。

Pitney Bowes Software の製品、オプション、およびサービスの価格は、USPS® または米国政府によって規定、制御、または承認されるものではありません。RDI™ データを利用して郵便送料を判定する場合に、使用する郵便配送業者の選定に関するビジネス上の意思決定が USPS® または米国政府によって行われることはありません。

データ プロバイダおよび関連情報

このメディアに含まれて、Pitney Bowes Software アプリケーション内で使用されるデータ製品は、各種商標によって、および次の 1 つ以上の著作権によって保護されています。

© Copyright United States Postal Service. All rights reserved.

© 2014 TomTom. All rights reserved. TomTom および TomTom ロゴは TomTom N.V. の登録商標です。

© 2016 HERE

Fuente: INEGI (Instituto Nacional de Estadística y Geografía)

電子データに基づいています。© National Land Survey Sweden.

© Copyright United States Census Bureau

© Copyright Nova Marketing Group, Inc.

このプログラムの一部は著作権で保護されています。© Copyright 1993-2007 by Nova Marketing Group Inc. All Rights Reserved

© Copyright Second Decimal, LLC

© Copyright Canada Post Corporation

この CD-ROM には、Canada Post Corporation が著作権を所有している編集物からのデータが収録されています。

© 2007 Claritas, Inc.

Geocode Address World データ セットには、
<http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/legalcode> に存在するクリエイティブ コモンズ アトリビューション ライセンス (「アトリビューション ライセンス」) の下に提供されている GeoNames Project (www.geonames.org) からライセンス供与されたデータが含まれています。お客様による GeoNames データ (Spectrum™ Technology Platform ユーザ マニュアルに記載) の使用は、アトリビューション ライセンスの条件に従う必要があります。お客様と Pitney Bowes Software, Inc. との契約と、アトリビューション ライセンスの間に矛盾が生じる場合は、アトリビューション ライセンスのみに基づいてそれを解決する必要があります。お客様による GeoNames データの使用に関しては、アトリビューション ライセンスが適用されるためです。



3001 Summer Street
Stamford CT 06926-0700
USA

www.pitneybowes.com